

不妊治療の基礎知識

体外受精の基本ステップ



園田桃代ARTクリニック
園田 桃代 先生

医学博士・日本産科婦人科学会専門医・日本生殖医学会認定生殖医療専門医

2010年の開院以降、現在までに2482名の方が妊娠されました。当クリニックでは、タイミング療法や人工授精、体外受精、顕微授精まで幅広い診療を行っています。治療の過程で、体外受精を検討される時に、治療法・仕事と治療の両立・費用などの不安から、決断できないように感じられる方が多いように感じます。当院では2017年より体外受精セミナーで、治療の説明や疑問にお答えしています。特にスケジュールは普段の生活や仕事との調整が必要ですので、分かり

やすい説明を心がけています。体外受精の治療には準備も含めて約2カ月必要で、月経周期に合わせてスケジュールを決めていきます。体外受精前

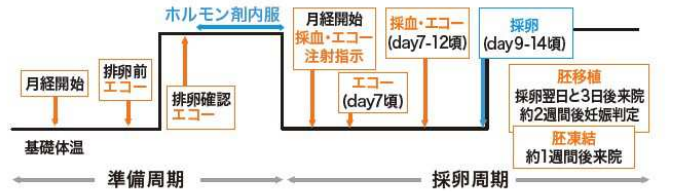
の周期が準備周期となり、排卵後より卵巣を休めるためにホルモン剤を内服します。内服後に月経が始まる服後、約10日間の排卵誘発期間に3〜5

回の診察を行い、卵巣径とホルモン値で採卵の時期が決まります。採卵後、新鮮胚移植の場合は3日後に胚移植、約2週間後に妊娠判定となります。胚凍結の場合は移植が約1〜2カ月先になります。

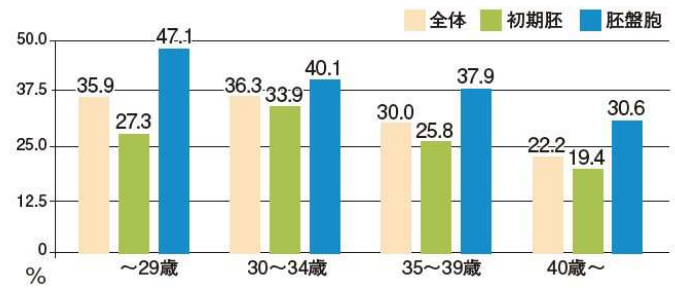
不妊治療で大事なのは、一人ひとりに必要な治療を的確に見極め、スムーズに治療を進めていくことです。体外受精も必要と判断したうえで提案しています。戸惑うことや、不安に感じることもありますが、夫婦で治療を前向きに考えられるよう、スタッフ全員で支えていきます。

《体外受精スケジュールの例》

準備周期							採卵周期						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
22	23	24	25	26	27	28	29	30					
29	30												



《当院での初期胚・胚盤胞の妊娠率》



当院では採卵した日から3日間培養した「初期胚」と呼ばれる卵を移植する方法と、5日間培養して「胚盤胞」に成長させてから移植する方法があります。上のグラフは当院の妊娠率を年齢別にお示したものです。一般的に言われている通り、35歳から妊娠率は徐々に低下していく傾向にあります。また、全ての年代において初期胚よりも胚盤胞の方が妊娠率は高いですが、全ての卵が胚盤胞へと成長するとは限らないため、胚盤胞培養にはリスクを伴うことがあります。当院では、どちらの移植方法がベストなのか、卵の成長や患者様の治療歴などを考慮して、最適な方法をご提案させていただきます。また、卵を一旦凍結しておけば、その卵は老化することはありません。現在の社会情勢を考慮して妊娠を延期された方は、妊娠率が少しでも高い若い間に卵を凍結しておくことをお勧めします。

少人数制セミナー開催します

お待たせしました。安心・安全の少人数制でセミナーを再開します。定員になり次第締め切りとさせていただきます。詳しくはホームページをご覧ください。



体外受精セミナー 妊活応援セミナー+院内見学会
8/1(土) 当クリニックにて 8/8(土) 当クリニックにて

園田桃代ARTクリニック

豊中市新千里東町1-5-3 千里朝日阪急ビル3F
診療時間/10時~13時、15時~18時
火・木・土曜日は午前のみ、日休祝診

☎06-6155-1511

http://www.sonoda-art.com

